

文化祭協賛

第2回小須戸町俳句大会作品募集

小須戸町俳句同好会・中央公民館主催による俳句大会を行います。流派に偏らない俳句大会です。町民の方々がお応募下さるようお願いいたします。

(一般の部)
日時=昭和59年11月2日(金)~4日(日)
会場=小須戸町中央公民館
兼題=秋季雑誌未発表作品、5句以内、出句無料
(官製葉書又は同型用紙使用のこと)

投句先=小須戸町中央公民館内
小須戸町俳句大会係宛

切=9月30日(当日消印有効)
規定=小須戸町在住並びに通勤・通学者に限る。

住所氏名明記のこと
(作品発表ペンネーム可)

選考=県内外著名俳人十数名の合点による
(学生の部小・中・高校生)

一般の部に同じ……投句の際必ず学生と明記のこと。

表彰=町長賞・教育委員会賞・公民館長賞
他30位まで

主催=小須戸町中央公民館・小須戸町俳句同好会

後援=小須戸町・小須戸町教育委員会・小須戸町文化協会



第10回町民展のご案内

ふるってご応募下さい

今年も、恒例の町民展いわゆる美術展覧会の時期が近づいております。次の要項により広く町民の皆さまへ作品の応募をお待ちしております。

主催=小須戸町文化協会
会場=小須戸町中央公民館
会期=11月2日(金)~4日(日)
時間=午前9時~午後9時
応募資格=小須戸町内在住又は勤務する者
作品=出品作品1人2点以内。大きさについては制限しない。

出品料=無料
出品種目=日本画・洋画・書道・写真・工芸・彫塑

※出品作品はすべて無審査のうえ展示します。

出品申込み及び搬入
10月31日(水)午後5時まで中央公民館事務局まで。



町館信日 戸常日 小中成毎 須央田月 公公月部 民民部 館館部 報報部

サッカー実技講習会

十月十日体育の日
午前十時~午後四時
午前中町民体育館
(講義)
午後II河川敷グラウンド
(実技指導)
講師II北越商業高等学校
サッカー部顧問
嵯峨谷 通先生

みんなで町をきれいに
第三回空カノ作戦
十月十四日(日)

連合婦人会々長が交替

新会長に板井悦さん

八月二日に行われました昭和五十九年度連合婦人会総会において新会長の就任と各新役員体制が承認されました。

前任の松沢キヨ

前連合婦人会会長
松沢 キヨ



光陰矢の如しと申しますが、月日のたつのは誠に早いものでございませぬ。昭和五十九年、明治は、はるかに遠いものになりました。その明治生まれの私が、昭和四十年に小須戸町婦人会々長を拝命して十九年が過ぎましたが、このたびの総会をもちまして、昭和生まれの皆さんにバトンタッチさせていただき任務を終了することになりました。過ぎた日をふり返ります時、様々な事々が浮ん

就任の板井悦

新連合婦人会会長
板井 悦

このたび計らずも婦人会長という大任をお受けし、その重責を感じている所でございます。人は常に時代に沿って生きていかねばならないと思っております。一年一昔とまでいわれる今日、刻々



と変わりゆく社会情勢にどう対処してゆけばよいのか戸惑いがちになるこの頃ですが、皆様と手をこの目ざかりで、会の立派な目標に向かって微力ではございますが、お手伝いしてゆきたいと思っております。皆様の絶大なご協力をお願い致しまして就任の挨拶と致します。

- 役員体制
会長 板井悦(小須戸)
副会長 佐藤清枝(小須戸)
長沢玲子(横川)
丸山フサ(新保)



はさ木 高山信市郎

- 町民の皆様へ
連合婦人会では、病気の虚礼の廃止を断行することになりまして、町民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

小須戸町連合婦人会より

町民の皆様へ
連合婦人会では、病気の虚礼の廃止を断行することになりまして、町民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



青年通信

サークル あおぞら

そろそろ秋が深まり肌寒くなった今日この頃、皆様どのお過ごしでしょうか。読書の秋、スポーツの秋そして食欲の秋と楽しいことばかりです。サークルあおぞらでも、この秋ハイキングの計画を予定しています。紅葉の山々を私達と一緒に歩いてみませんか。さて毎月この青年通信を読んで下さっている皆様へご連絡、毎週火曜日夜七時三十分からのサークル活動が、九月より毎週金曜日に変更すること

図書だより



- 新聞図書(一般)
破獄 鈴木 健二
心を燃やそう 吉村 昭
ナイフに死す A・クリスティー
思えばこの世は仮の宿 下重 暁子
愛すればひとり 落合 恵子
二等兵物語(上・中) 梁取 三義
トットちゃん 黒柳 徹子
カルチャーションブック
星に願いを 林 真理子
街角に投げキッス 他二冊 齊藤 栄
日本海流殺人事件 他二冊 赤川 次郎
三姉妹探偵団 他十三冊

公民館大会開催

公民館活動の充実・発展を図るため三市中浦の役員が一堂に会し、公民館活動のあり方をさぐる」と題して次の要領で行なわれます。
期日II九月二十八日(金)
午前九時三十分~
午後三時
会場II小須戸町中央公民館三階ホール
主催II三市中浦原部公民館連絡協議会
小須戸町中央公民館

この夏

スポーツ少年団活躍

第九回新潟県少年少女剣道大会

8/12新潟市体育館 主催 新潟県剣道連盟

小学生低学年の部 小須戸1-1 浦川原

小学生低学年男子の部 小須戸1-1 新湯市剣

小学生低学年女子の部 小須戸0-1 新湯市C

小学生高学年男子の部 小須戸3-1 北魚沼郡

小学生高学年女子の部 小須戸1-1 燕市

中学生男子の部 小須戸0-1 新湯市A

中学生女子の部 小須戸5-1 西頸城郡

中学生男子の部 小須戸1-1 新湯市B

中学生女子の部 小須戸0-1 佐渡剣連

入賞はできませんでしたが各部とも善戦今後一層の活躍を期待します。

優勝剣道

中学生男子の部

第四回新潟県スポーツ少年団総合体育大会

S59・8・19 於 新潟市

猛暑の中、下越地区選手を通過した小須戸町剣道スポーツ少年団(中学)男子・女子、柔道スポーツ少年団(中学)、サッカースポーツ少年団の三種目出場、各種目とも健闘して優秀な成績を収めました。

剣道(中学生男子の部) 小須戸5-1 川崎東(長)

小須戸1-1 白根(新)

小須戸3-1 心武館(新)

小須戸4-1 1村松

小須戸4-1 1長岡西

小須戸4-1 1村松

小須戸3-1 2新湯北部

小須戸3-1 2新湯北部

決勝戦 小須戸4-1 1島上剣(分水町)



先吉田ドメー渡辺 次風間コーコメ▲桑原 中長谷川コーメメ丸山 副井上メコーメ山 大五十嵐誠コーメ大矢 中学生男子の部 小須戸0-1 10日町剣道 二位

サッカー各種大会結果

北信越ブロック少年大会 八月七日(日) 九月二日(日)

福井県10-0新潟小須戸 長野県4-0

親善少年サッカー大会 九月二日(日)

小須戸河川敷サッカー場

Aブロック 一位 小台イレブン

二位 庄瀬コスモス

三位 FC飛龍

白根ジャガーズ

Bブロック 一位 庄瀬小学校

二位 小須戸サッカー少年団

三位 小合ルムメニゲ

FC飛龍B

北信越ブロックスポーツ少年団大会に出る

須藤 崇仁

ぼくは、北信越スポーツ少年団大会に参加してよかったことがたくさんありました。

それは、ほかの県の人と一緒によそにのびのびとしたことや、たのしい感じがしたことです。

サッカーの試合では、一回戦は福井県のチームとやってぜんぜん歯がたらず、10たい0でまけてしまいました。

二回戦では、長野県のチームとやることになって、あいてはぼくたちより背が小さいので勝てるぞと思つて、前ははんに

はりたいて、後ははんにはつきつと入れられて4たい0でまけてしまつた。

その長野のチームは、今年はじめでできたことをしつとてよくやしかつた。



夜には、キャンプファイヤーをやった。かく鼎でだしをのするの、新潟はウルトラセブンの歌をうたつてバカバカしかった。火が強くておもしろかったが、ちかくの人がホースで水をかけるのでおもしろくなくなつた。

分館だより

お知らせ

矢代田分館運動会 九月三十日(日)

矢代田小グラウンドにて

八時三十分 開会式

九時 競技開始

九時三十分 閉会式

小須戸分館運動会 十月七日(日)

中学校グラウンドにて

九時 開会式

九時三十分 競技開始

※多数ご参加下さいませ ようお願い致します。

愛護会連合会

町民将棋大会 (王将戦開催)

中央公民館、小須戸町将棋愛好会主催で左記要領で開催します。

一、日時 九月三十日(日) 午前八時三十分

分受付、午後五時終局開始

二、会場 中央公民館二階会議室(昼の間)

三、参加費 二千元(昼食代、参加費、その他)

四、対局方法 グループに分け、総当たり戦後各グループ上位二名によるトーナメント戦

※参加申込みは九月二十七日(木)までに中央公民館へ(電話も可)

なお、参加費は当日受付で頂きます。

中学生文芸

三年生作品

日差し除け日陰へ日陰へ足が向き 砂井 弘子

朝顔のつぼみ数えて夕涼み 保科寿美子

蟬の声いつになつたら止むのかな 藤原 陽子

浴衣着て少し綺麗になつたかな 佐藤 直弘

何となく夜空を見れば流れ星 深沢 孝良

くつきりと残った黒い夏の跡 青木 哲郎

パチパチと蚊をたたく音なり止まず 丸山美奈子

夏休み終わってみんなの黒い顔 三浦 清子

黒々と自慢の日焼け腕くらべ 荒木 征昭

久しぶり見る子の髪はみなショート 田代 美加

人気ないブルに映る赤とんぼ

夏空にドカーンと一発花の舞い

通学路一足先に秋の色

八月旬会報

小須戸町俳句同好会

水張れば水口泥船上り来る 香月 素男

不機嫌に手こずりし子の昼寝さめ 松 久子

蝶の声引き湖に移りけり 可津朋 越 松

のうぜんの花揺るゝ下ねわり火 松山 妙子

梅干の作りを母に長電話 松川 富子

水口に鯉のかたまる暑さかな 松川 富子

うつぶせの児あふ向けの母屋寝かな 松川 富子

弟の分骨胸に梅雨の汽車 松川 富子

松川つてなお広がれり夏の雲 松川 富子

百台句う仲間朝の風入れて 松川 富子

検診車着く村道に蝉しぐれ 松川 富子

唐黍の花快晴の天をさす 松川 富子

喜雨の畑もぐら新たな土盛りて 松川 富子

面識の遠会積りて梅雨の葬 松川 富子

蟬鳴いて午後の熱気昂ぶりぬ 松川 富子

短歌

踊る輪のいつしか解けて提燈の灯り点れり諏訪の宮宿は 我妻 清作

秋葉松林(冬) 枝折れて乱れ散りたる青松葉らうげぎの限り山坂にあり 伊藤 照溪